

「第2回 豊橋市都市交通計画検討委員会」議事録

○日 時 令和6年11月20日（月） 10時00分～

○場 所 豊橋市役所 講堂

○出席委員 別紙「出席者名簿」参照

○傍 聴 人 1名

○事 務 局 5名

〔会議資料〕

◆次第、配席図、出席者名簿

【資料1】・都市交通計画の改定に向けた進め方

【資料2】・前回の検討委員会の意見と対応方針

【資料3】・市民意識調査の概要

【資料4】・基本方針・目標の設定に向けた都市交通課題の整理

【資料5】・計画の構成（素案）

【参考資料-1】・市民意識調査結果（全項目）

【参考資料-2】・豊橋市の現状（追加項目の整理）

議 事

1. 開会

(委員長)

- ・第1回豊橋市都市交通計画検討委員会では、現行計画の指標の評価と市民アンケートの意見を頂いた。
- ・今回は課題の抽出ということで、計画策定において非常に大事な事項である。今回示される課題が相応しいのか、不足はないか、認識に間違いがないかなど意見を頂きたい。

2. 議事

(1) 都市交通計画の改定に向けた進め方について

- ・事務局より、【資料1 都市交通計画の改定に向けた進め方】の説明が行われた。

〔質疑等〕

- ・特になし。

(2) 前回の検討委員会の意見と対応方針について

- ・事務局より、【資料2 前回の検討委員会の意見と対応方針】の説明が行われた。

〔質疑等〕

- ・特になし。

(3) 市民意識調査の概要について

- ・事務局より、【資料3 市民意識調査の概要】の説明が行われた。

〔質疑等〕

(副委員長)

- ・市民アンケート調査、路面電車沿線住民アンケート調査について、1世帯あたり4票封入しているとのことだが、世帯単位での回収数だけでなく、個人単位での回収票数も教えてほしい。

(事務局)

- ・承知した。別途、回答する。

(委員)

- ・自分自身が市民アンケートの対象者となった。回答者の立場から、アンケートの内容が膨大で、負担が大きかった。路面電車やまちなかの質問といった自分の地域にあまり関係のない項目が多かった。

(委員長)

- ・公共交通利用者アンケートの回収率が低いのが、事務局の考えを伺いたい。

(事務局)

- ・特に路面電車では、高校生に受け取ってもらえないケースが多かった。

- ・各交通モード付近に配布場所を設定して配布したが、モードによっては、配布数が伸びなかった。例えば、利用者の多い鉄道は一定数配布できたが、利用者の少ないバス・タクシーでは配布数が限られ回収率が伸びなかった。
- ・公共交通利用者アンケート調査票は各モード共通の様式としたため、受け取った回答者が利用したモードと関係ない設問もあり、ボリューム感を感じたかもしれない。

（委員長）

- ・アンケート調査票の設計があまり良くなかったかもしれない。モード毎に調査票を分けた方が良かったと思う。今後活かして頂きたい。
- ・配布数は設計上の数値ではなく、実際の配布数を記載するべきである。

（副委員長）

- ・モード毎の回収状況も知りたい。各モードの個別分析が必要となってくる。

（事務局）

- ・補足説明となるが、公共交通利用者アンケートは、調査票を受け取った際の移動に利用した交通モードと、日常でよく利用している交通モードについて聞いている。配布場所は、各交通モードの付近であるが、利用者は様々な交通モードを利用している可能性がある。
- ・モード毎の配布状況は追って回答する。

（副委員長）

- ・モード毎の配布数と設問の中に受け取った場所があると思うので、それを元に配布場所毎の回収状況を整理し偏りがないか確認する必要がある。

（委員）

- ・公共交通利用者アンケートを実際に受け取って回答した。
- ・モード毎にバイアスがあるという議論になっているが、そもそもモード毎に分けて配布した意図について説明された方が良いと感じた。

（事務局）

- ・補足となるが、交通計画には鉄軌道、路線バス、コミュニティバス、タクシーが位置付けられており各モードの課題を把握できるよう、公共交通利用者アンケートを実施した。

（委員長）

- ・駅、バス停、タクシーベイといった乗降場所で配布はしているが、その手段だけに限った調査ではなく、公共交通利用全体に対する調査ということで了解した。
- ・モード毎の配布数や回収数は整理いただくとして、集計の段階でモード毎にバイアスがかかる可能性があることは注意する必要がある。

（４）基本方針・目標の設定に向けた都市交通課題の整理について

- ・事務局より、【資料４ 基本方針・目標の設定に向けた都市交通課題の整理】の説明が行われた。

〔質疑等〕

（委員長）

- ・資料４の左側の人口、環境などの項目は、豊橋市の現状を事実としてまとめているものか。

(事務局)

- ・参考資料１の市民意識調査結果や参考資料２の豊橋市の現状を捉えて整理している。

(委員長)

- ・アンケートや現状整理によるバックデータをもとに整理していることで了解した。
- ・前回まとめた社会動向を踏まえ課題を１１項目整理しているが、資料４の左側の現状の記載の中には、「～が必要である」など、課題のように読み取れる記載が含まれている。ここでは、現状を踏まえて「～が問題となっている」など事実を記載した方が良い。
- ・課題の過不足について議論いただきたい。

(副委員長)

- ・委員長の発言のとおり、事実だけでなく課題や取り組みまでも書かれている。課題整理の前提に事実とそこから生まれる問題点の順に整理すると良いと思う。
- ・課題には、対応策に近いものも含まれている。公共交通がないと何が困って、何に対して対応しなければいけないかが課題である。その観点で整理すると、課題の数は集約できるのではないか。

(委員長)

- ・記載されている課題は、レベル感が違うものがある。テーマに対して手段も含まれているため、階層構造にしてはどうかと考える。

(事務局)

- ・意見を踏まえ、改めて整理する。

(委員長)

- ・目的と手段という視点で再度、検討するのが良い。

(委員)

- ・資料４の左側の公共交通の利用状況について、市民アンケート調査結果ではどの目的でも自動車の利用が多いとあるが、高校生や高齢者など自動車が使えない人もいると思う。年齢別などで細分化して分析すると、課題が見えてくるかもしれない。

(委員長)

- ・問題を抽出できるように分析していただきたい。

(事務局)

- ・承知した。

(委員)

- ・本市を取り巻く現況と社会動向を分けて記載した方が、本市の課題がより鮮明になると感じた。

(委員長)

- ・国や市を取り巻く社会動向は別で記載した方が良い。

(事務局)

- ・分かり辛さもあるため、構成は改めて整理する。

(委員長)

- ・課題のレベル感は改めて整理いただくとして、項目として問題ないか、委員の皆さんに確認いただきたい。

(委員)

- ・自転車や徒歩の現況について、市民アンケート調査によると通行環境に不満を抱いているようだが、課題では道路ネットワークの形成が挙げられている。通行環境の現況に対する課題としては、通行環境の整備や道路空間の改善などの方が良いのではないか。
- ・他の項目についても、課題としてそれだけではないものがあるように感じる。

(事務局)

- ・課題として設定した「道路ネットワークの形成」に集約することを考えていたが、表現については改めて考えていきたい。

(委員長)

- ・課題であるか対応策であるか、または、施策であるのか、位置付けは検討いただきたいが、空間の再編は重要な視点であるため、内容としては入れていただきたい。

(5) 計画の構成(素案)について

- ・事務局より、【資料5 計画の構成(素案)】の説明が行われた。

〔質疑等〕

(委員)

- ・基本理念の変更は良いと思う。文末に「必要がある」という表現などがあるが、50年以上住んでいて利便性は変わっていない。地域ではコミュニティバスが運行されており嬉しいと思う反面、時間や便数に制約があり、車に頼らない生活はできない。

(事務局)

- ・なかなか進まない取組みもあるが、課題を抽出する中で取組みをしっかりと実行していきたい。

(委員長)

- ・少なくとも課題や必要性を示さない限り取組みは進まない。示したものを取り消すことはしないため、掲げ続けなければならない。超高齢化社会で免許返納も増えてくると思うが、車がなくては暮らせないという人が増えてくるのも間違いない。その中で、色々な取組みも行われているため、計画にしっかり位置付けてほしい。

(委員)

- ・事務局へのお願いであるが、全国各地で自動車から代替する取組みが行われている。事例などを紹介しながら議論できたらいいと感じた。

(委員長)

- ・各地の好事例を参考にしながら議論できたらと思うので、是非お願いしたい。

(委員)

- ・住み続けることができない危機感があるまちは、全国的に数多くある。高校生は年齢的に車の運転ができない。しかし、豊橋の地方部では、送迎など車に頼るしかないところもある。学校、就職先がなければ都市圏に住むしかないが、各地でいずれ戻りたいと思えるまちを目指した取組みなどが実施されている。
- ・地元住民、自治体、交通事業者が意見を交わすことが一番大事だと思っている。計画の構成の基本方針3に「みんなで支え育む持続可能な交通づくり」とあり、支える、育むこと

はもちろん大事だが、「みんなで考える」ことが大事だと思う。住民の意見を聞く機会があることが大切である。豊橋市でも、地域によってかなり課題が違う。「支える」というと、支える側、支えられる側、という立場があるが、みんなで考えるとなると、目線が一緒になるので、表現について検討いただきたい。

(事務局)

- ・コミュニティバスなど、実際に地域と一緒に考えているところはある。一方で、市域全体でみると様々なので、表現については今後の検討材料としたい。

(委員長)

- ・支えるということは、そもそも支えられる地域があるということでみんなが自分事として考えることが重要である。

(委員)

- ・公共交通の利用状況について、例えば、鉄軌道、路線バスにおいて定期と定期外の利用では、コロナ以降、定期外の利用者数が戻っていない状況である。また、豊橋駅周辺のまちなかへのお出かけについて、市民アンケート結果では、公共交通利用が多いという結果だが、参考資料2に示されている駐車場の利用状況などは、平日・休日で実態が変わってくるのではないかと想定される中で、定期外の利用者を増やす視点も重要と考えている。
- ・「過度に自家用車に頼ることなく」と記載があるが、平日は通勤通学の定期利用をしていますが、休日は家族で自家用車を利用する場合もあり、細かく分析することで見えてくる対応方策がある。
- ・アンケート調査結果について、定期／定期外や、平日／休日などによって分析を深掘りしていただきたい。

(委員長)

- ・データの分析についても、詳細に行っていただく。
- ・分析にあたっては、定期／定期外での利用状況などの必要なデータは交通事業者から提供いただくということをお願いしたい。定期では、通勤と通学でも状況が違うため、そのあたりも分析いただきたい。

(副委員長)

- ・基本理念の考え方について、「交通弱者が取り残されない」という視点について、もう少し強調してもいいと感じた。
- ・基本方針3について、現行計画では交通行動を意識していたが、今回は公共交通の維持ということで、基本方針1と重複しているような気がする。どちらかという、基本方針3は共創で交通体系を維持することにつながる方が望ましい。
- ・ハード・ソフト施策は基本方針1、2で受けて、それ以外が基本方針3に入るようにできると良いと思った。
- ・「現行計画の総括」について、ここはあくまで「総括」であるので、今後やるべきことではなくて、現行計画の評価になる。今回できたことを強調して、次に目標達成できなかった反省点を記載した方が良いのではないかと。
- ・「国の動向」について、都市交通計画を立てる前提になるものなので、計画書の前半に記載するべきではないか。

- ・関連計画について、全て細かく網羅する必要はないが、どんな内容が関係してくるかは前提としてまとめておくべきと考える。
- ・資料４の課題の整理は、もう少しボリュームを持って整理した方が良い。
- ・最終的にこの計画を読んだ人が賛同して、どのようなことに一緒に取組んでもらうかを記載するものなので、そういった観点で作成されるとよい。

（事務局）

- ・資料４の課題の整理は引き続きやっていきたい。
- ・基本理念について、交通弱者については、「誰もが使える」という表現としていることで受け止めている。
- ・基本方針３については、「意識の転換」に重きを置きたいと考えており、今回の内容を設定している。
- ・現行計画の総括については、表現を再度、検討する。

（委員長）

- ・関連計画の紹介と国の動向の記載箇所も含めて検討いただきたい。
- ・総括については、タイトルが良くないかもしれない。評価の総括と記載すると、達成の可否、理由、今後何が必要かという記載になる。ここに記載しているのは今後何をすべきかが記載されているのみなので、タイトルを変更するか検討いただきたい。
- ・先ほど副委員長より基本方針１、２はハードとソフト基本方針３はそれ以外と発言があったが、それ以外には何を位置付けるべきと思うか。

（副委員長）

- ・現行計画では「行動変容を促す」ことを意識しており、今回のものでは「共創」、行動を促すだけでなく、情報提供や理解を促すための取組みが必要になってくると考えている。
- ・意識の転換を図る主体は誰なのか、ということが分かる表現であるといい。
- ・基本方針３は、公共交通を維持するではなく行動変容のようなものにした方が良いのではないかと考える。

（委員長）

- ・基本方針３は、公共交通を維持するのを目的とするのではなく、みんなで考えてみんなで創りあげることで生活の維持、公共交通の維持につながる。行政が介入するのか、市民が創りあげるのか検討いただきたい。他の自治体の事例で言うと、共創を明確に打ち出し市民で考え行政が支えると位置付けているところや行政が地域に入り一緒に取組むということもある。参考に検討して頂きたい。
- ・誰もがというところで、交通弱者の話もあったが、都市部や郊外全て含めての誰もがだと思う。SDGs では誰一人取り残さないとあり全ての公共交通では、現実的に難しいが、誰一人取り残さないという感覚は持っておいて欲しい。

（委員）

- ・公共交通を維持する上での一番の課題は運転士不足である。課題に運転士の確保が挙がっているが、本編の中に運転士不足の現状を入れることで、市民にも現状を知ってもらう方が良いと感じた。

(委員)

- 交通弱者への配慮について、タクシー事業を営んでいて実感している。総括の中で、UD タクシーの導入、高齢者等への付き添いサポートを実施している。70 代以上の一人暮らしの方が多く、フレイルの方は経済状況に関係なく利用いただいている。乗務員の本来の役割ではないが、乗務員と乗客との会話によって、ウェルビーイングの向上にもつながっていると感じる。
- 現行計画の基本方針 1 に「人に優しく」という記載があったが、新たな方針に記載はないため、それによって後退することがないようにしていただきたい。

(委員)

- 副委員長から指摘があったように、資料 4 の課題はもう少し体系的に整理した方がいいということだが、交通課題から基本理念や基本方針等につながっていくように整理されると分かりやすいと思う。

(委員長)

- ストーリー性が欠けているという意見と捉えている。
- 環境、健康は非常に重要なテーマだと考えている。交通の役割は非常に大きいため、環境・健康は残してもらえたらと思う。
- 「みんなで考える」はすごく大事でおそらく姿勢である。ハードやソフトに関しても言えることで全体を貫くような方針という気もする。一方で共創という仕組みを創る意向があるのであれば方針という形で出してもらえば良いと思う。

(6) その他

(委員)

- 第 1 回委員会の意見を踏まえ、東海旅客鉄道株式会社の運行情報について説明。

以上